

姫路顕栄教会

エピファニー・タイムス

【住所】〒671-1152 姫路市広畑区小松町 4-36

編集責任者 牧師・司祭 ミカエル小南 晃

逝去者記念の時にあたり

「こういうわけで、わたしたちもまた、このようにおびただしい証人の群れに囲まれている以上、すべての重荷や絡みつく罪をかなぐり捨てて、自分に定められている競走を忍耐強く走り抜こうではありませんか。信仰の創始者また完成者であるイエスを見つめながら。」

(ヘブライ人への手紙12:1-2)

11月は教会の逝去者記念月です。11月7日(日)の礼拝の中では歴代の当教会関係逝去者の方々のお名前を読み上げさせていただきます。

そこに今年新たにお名前が加わっているのを見ると、やはり寂しい思いは拭えません。

しかし私たちが逝去者を覚えて記念するのは、まずは復活と永遠の命の信仰、「愛でし者とやがて会いなん(聖歌518番)」という望みを堅くするためだということです。

冒頭の聖書箇所、ヘブライ人への手紙12:1以下は、「こういうわけで」という言葉で始まっています。「どういふわけか」はその前の章の11章全体に渡って記されていますが、そこには旧約聖書の創世記から始まって旧約聖書中の信仰に生きた人々の名前とその人生が列挙されています。そしてその信仰の先達

に倣って、世にある自分たちも信仰生活に励んでいこうと呼びかけているものです。

そして私たちが歴代逝去者記念礼拝において、信仰の先達を覚えてお名前を読み上げて行く時、その方々の信仰の延長線上に私たちの信仰生活があることを覚えるものです。

信仰生活はしばしば競技に譬えられます。それは個人競技であると同時に、リレー競技でもあります。私たちは信仰を受け継いだ感謝と共に、それを他の人々や次世代にリレーして行く使命を託されているのです。

逝去者記念の祈りでしばしば「よい模範を残した僕らの跡を踏む」という言葉に出会いますが、確かに模範とすべき立派な人生もあるでしょう。しかしどれだけ立派かというよりも、どれだけ主に信頼し、主と共に生きたかがより大切な信仰生活の模範になるのです。

そしてそうした後姿が、他者に対して、また次世代に対して、信仰のバトンを渡して行くことになるのです。

この逝去者記念の時にあたり、私たち自身も、やがては世を去る存在であることを覚え、自らの人生と信仰生活について思いを巡らしながら、新たな一歩を歩みだせますように、共に祈り求めて参りたいと思います。

子ども祝福式のご案内

子ども祝福式を以下のように行います。子どもたちのすこやかな成長をおぼえて祈り祝福をいたします。どなたでもご自由にご参加下さい。

【日時】 11月21日(日) 9:30 日曜学校・子ども祝福式

11月21日(日) 10:30 聖餐式・子ども祝福式

【場所】 姫路顕栄教会 礼拝堂

姫路顕栄教会 教会委員会